

1 重点目標

本年度の経営目標を「集団の中での役割を自覚し、責任を果たす生徒の育成」として、「集団の中で、自分の役割を理解する力を育てる。」「何事にも粘り強く取り組む態度と体力を育てる。」「社会参加に必要な知識・技能・判断力を育てる。」という3つの重点目標を立てて取り組んでいる。

生徒の社会参加に向けては、集団を意識させ、自分の役割を果たすことで、集団の一員としての自覚を持たせ、働く意欲を高めていくことが重要であると考えている。

また、生徒一人一人に応じた指導・支援を行い、将来の自立を目指して必要と思われる力を伸ばしている。さらに、卒業後の生活をイメージして、積極的に社会に出て活動や体験をする機会を設定し、そこでの評価と課題を基に校内での指導を充実させるように努めている。

2 教育課程のあつかい

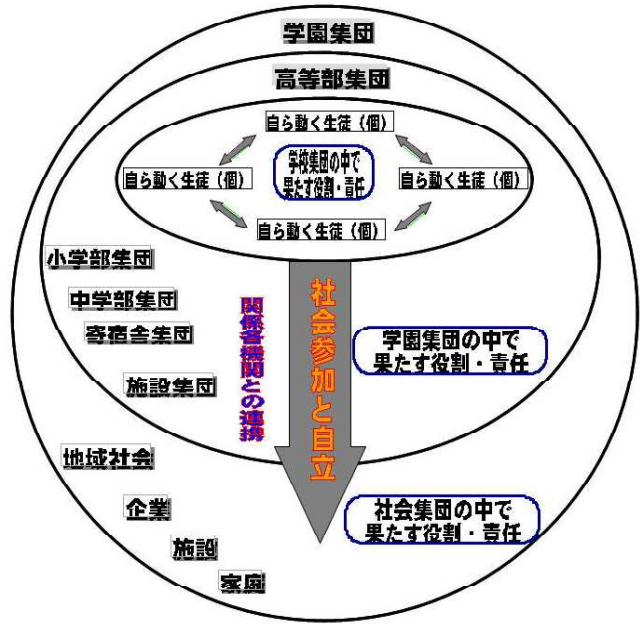
自立活動は、教科等合わせた指導と日常生活の指導の中で行ってきた。今年度からは、自立活動の専任教師による抽出指導も始めた。朝の課題別学習の時間や昼の活動の時間などを中心に抽出指導を行っている。

作業学習には、訓練班作業と学部作業がある。卒業後の生活を想定した作業学習を、自立活動で身に付けた力の評価の場面として活用している。

訓練班作業は、学園内にある健康の森学園福祉施設の作業班と連携した作業に学年別で取り組んでいる。1年生は林産班、2年生は畜産班、3年生は農産班に所属し、福祉施設の施設を借りて本格的な作業学習を実践している。学部作業は、毎週木曜日に実施し、1年生から3年生までの縦割りで、職業班・生活班の2つの作業班を作っている。

また、今年度から、地元の一般企業の協力

平成25年度 高等部 学部経営構想図
社会集団



今年度のキーワード＝**集団を意識する**

個を伸ばすのは
集団のため

集団が成長しなければ
個の力は伸びない

平成25年度 高等部日課表

	月	火	水	木	金	
9:00	登校(寄宿舎との引き継ぎ)					
	朝の活動(朝の運動・課題別学習・朝の会・HR活動等)					
10:10	生活単元学習	作業学習 (訓練班)	作業学習 (訓練班)	作業学習 (学部作業班)	作業学習 (訓練班)	
11:50	昼食準備・昼食・休憩					
12:40	昼の活動		昼の活動	昼の活動		12:25
13:10	帰りの活動		帰りの活動	帰りの活動		12:55
14:00	芸術 (音・美)	課題別学習	下校	作業学習 (学部作業班)	クリエイティブ タイム	13:15
14:05			課題別学習			
14:55	帰りの活動 (清掃・帰りの会等)			帰りの活動 (清掃・帰りの会等)		14:50
15:15	下校(寄宿舎との引き継ぎ)			下校(寄宿舎との引き継ぎ)		

を得て、企業内作業学習を実施している。生徒の能力適性に応じ作業に取り組めるよう工夫している。

3 自立活動の指導力向上に向けての取り組み

今年度は、それぞれの生徒に応じた自立活動の指導計画や課題表を担当が中心となって作成した。作成の手順として、最初に、教職員全体に対し、産業現場等の実習先から求められている力についてのアンケートを実施した。結果からは、コミュニケーションに関する力の育成が必要という意見が多く、これが、自立活動の大きな柱となった。作成にあたっては、自立活動の専任教師から作成するための手順や作成方法などについて研修を行った。その後、一人一人の生徒について、課題分析を行い指導計画を作成した。学年を超えた作業班構成や全体指導の場面で、担任団以外も生徒の指導に当たるため、他の担当者とも連携しながら課題表を作成した。その後、担任を中心にした自立活動の指導と自立活動専任により抽出指導を始めた。

自立活動の指導が実施された後、学年主任と自立活動専任教師で指導計画の見直しを含めた研修を行った。また、前期終了時には、サポートキャラバン事業を活用して、指導計画と課題表の充実に向け自立活動の指導についての全員研修を行い、後期の指導計画、課題表の作成に役立てた。

4 成果と課題

指導計画や課題表は、担任が中心となり学年団で作成した。作成の過程において、様々な観点を持って生徒を観察することができたことが指導上の参考になった。

複数の教員で検討したことにより、生徒の課題と指導方法を共有することができ、指導の一貫性と指導場面の的確に捉えることにつながった。

生徒の課題や指導場面が明確になることにより、日々の学習活動における指導内容の改善や、日常生活で、言葉かけを少なくし、できるまで待つなど、教師の関わり方に変容が見られるようになった。

生徒の中には、自分の課題が自覚できるようになり、主体的に改善に取り組む生徒も現れた。

しかし、卒業までの時間が限られていることもあり、アセスメントは見取りが中心で検査等は行っていない。より客観的な判断に基づく指導計画を作成することが課題である。さらに、教師から見た課題を生徒が自覚していない場合、生徒が困っていないことについても課題として設定せざるを得ない。そのため、生徒一人一人の中心的な課題が、生徒の将来像や環境と照らし合わせて、本当に合っているのかどうか不安が残る。小中高の連携に基づく一貫した取り組みが、必要となってくる。今後、指導計画や課題表についても、より有効に活用できるものに変えていく必要がある。

高等部3年生A 企業内作業学習 学習指導案

- 1 学習日 平成25年10月3日(木)
- 2 指導者 教諭 岡田貴宏
- 3 学習場所 株式会社ジュンテンドー新見店
- 4 本時案

全体目標	<ul style="list-style-type: none"> ・指示された作業を正確に行うことができる。 ・長時間作業に取り組むことができる。 ・相手に聞こえる声の大きさであいさつや応対ができる。 		
個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・服装を整えて作業に取り組むことができる。 ・商品を間違えることなく品出しをすることができる。 ・客に対して適切な声の大きさで応対することができる。 		
学習活動	指導上の留意事項(□課題 ○支援 ☆評価)	自立活動との関連	
	個別		
	T1		
	a		
1 実習日誌を記入する。 ・目標の確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">服装を整えて作業に取り組むことができる。</div> ○正しい服装で参加できるよう、「お互いに確認しましょう。」と言葉をかける。 ☆服装を整えて参加することができているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本日の作業内容を知り、自分で目標を設定できる。</div> ○本日の作業内容を伝え、適切な目標を自分で設定できるよう助言する。 ☆自分で目標を設定することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業中 相手に聞こえる声の大きさであいさつ・返事・報告をする。 正しい姿勢・態度であいさつ・返事・報告ができる。 整った服装で作業ができる。 	
2 店舗内で作業をする。 ・品出し	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">商品を間違えることなく品出しができる。</div> ○商品を置く場所を間違えていないか確認し、間違えていた場合はバーコードを確認するように言葉をかける。 ☆正確に品出しをすることができたか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">客に対して適切な応対ができる。</div> ○作業前の確認事項(下記)が守れているか見守り、守れていない場合は反省の時に確認できるようにする。 ・作業中は客の邪魔にならないようにする。 ・商品の場所を訪ねられた時はその場で待ってもらうように伝え、店の人を呼んでくれる。 ・相手に聞こえる声の大きさであいさつや応対をする。 ☆客に対して適切な応対をすることができたか。 ※指示された作業が終了したら、先生に報告する。		<ul style="list-style-type: none"> ・客への応対 客に対して積極的にあいさつをする。 適切な言葉遣いで応対することができる。
3 実習日誌を記入する。 ・作業の振り返り	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">長時間作業に取り組むことができる。</div> ○1日の作業を振り返り、課題を見つけたり、成長した所を見つけたりすることができるように助言・称賛する。 ☆長時間集中して作業に取り組むことができたか。		

高等部における自立活動の指導

岡山県健康の森学園支援学校

対象生徒について

○対象生徒

- 高等部3年生男子生徒(知的障害)
(以下Aとする。)

○現在の生活の様子

- 平日は学校 夜間は寄宿舍
- 休日は家庭

○将来の目標とする生活

- 自宅から通勤
- A型就労継続支援を経て一般就労を希望

対象生徒Aの実態

○生活面

- 支援学校と寄宿舎では、適応して生活できる。
- 普段から声が小さい。
- 相手に自分の思いを伝えられない。

○作業面

- 手順書を見ながら一人で作業できる。
- 姿勢が悪い。
- 視力が弱い。
- 作業服を正しく着用しない。

自立活動の目標設定までの流れ

○日常生活からの課題決定

- 卒業までに、指導できる時間が限定される。
- 本人は、困り感を持っていない。

○産業現場等における実習先からの評価

- 「相手に伝わる声で報告ができること」を要求された。

現状認識

- 普段から、声が少し小さいと感じていた。
- 声の小さいことは個性として周囲に受け入れられていた。
- 嫌がるので、無理に大きな声で話すことを要求しなかった。
- 大きな声で話す必要性が無かった。

分析

- 身体機能的には問題はない。
- 大きな声で話そうとする意識がない。
- スキルが身についていない。
- 自信がない。

自立活動の目標

「コミュニケーションスキル獲得についての
取組」

今後の指導の方向性

○大きな声で話す場面の設定。

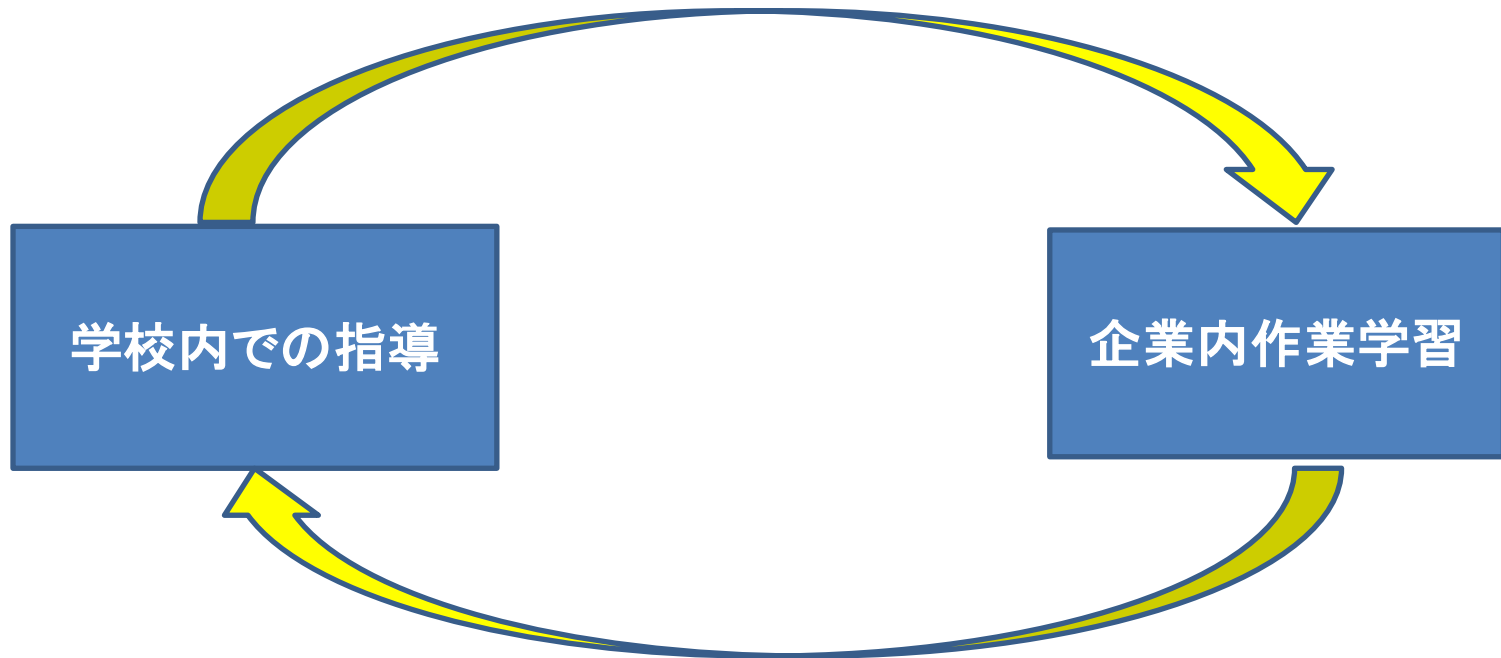
- 話す回数を増やす。必要性の自覚。
→校内でも設定が可能。

○改まった場面の設定。

- 雰囲気慣れる。
- 自信を持つ。
→校内では設定が難しい。
- ➡企業内作業学習を活用。

指導の関連性

指導場面の設定 校内での指導の評価



課題の発見 校内での指導の見直し

校内での指導

- 課題別学習（朝の会）
- 抽出指導（毎週水曜日30分間）
- 作業学習
- 余暇活動
- 生活全般について

課題別学習（朝の会・帰りの会：毎日）

○指導目標

- 姿勢を正して先生の話聞く。

○指導内容

- 正しい姿勢（立つ姿勢、座る姿勢）
- 話を聞く態度

抽出指導(30分間:週1回)

○指導目標

- 相手に聞こえる大きさの声で会話する。

○指導内容

- 気分の状態の確認と分析
- 自己認知
- 声の大きさのトレーニング

作業学習

○指導目標

- 正しい姿勢で報告ができる。
- 正しい言葉・音量で報告ができる。

○指導内容

- 正しい服装・姿勢・言葉遣い
- 適切な声量

余暇活動

○指導目標

- 適切な距離感を持って人と接する。

○指導内容

- 人との距離感
- 正しい言葉遣い
- 適切な声量

生活全般について

○指導目標

- 話している人に注意を払い、立位・座位の姿勢を整える。
- 相手に伝わる声で会話する。
- 目上の人に対して適切な言葉を使う。

○指導内容

- 正しい姿勢・言葉遣い
- 適切な声量

企業内作業学習(2週間に1回)

○学習日

- ・毎週木曜日(学部作業日)

○日程

- ・学園出発: 9:00(タクシー)
- ・学園到着: 18:12(市営バス)

○作業場所(協力企業名)

- ・株式会社サンディ サンパーク新見店
- ・株式会社ジュンテンドー新見店

企業内作業学習

○指導目標

- 正しい姿勢で報告できる。
- 正しい言葉・適正な声量で報告ができる。
- 場面や状況に合わせた接客や上司とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。

○指導内容

- 正しい服装
- 適正な声量
- 正しい言葉遣い
- 適切な態度での応対

成果と課題

- 話をする人の方を向き、正しい姿勢で話を聞くことができるようになった。
- 相手に伝わることを意識し始め、適正な声量で話そうとするようになった。
- 自信のある場面では、適正な声量で話すことができた。
- 服装を自分から整えるようになった。
- 意識をしていない時には、声が小さかったり、姿勢が崩れたりすることもある。
- 改まった場面や応対が難しい場面、他の人が応対してくれる場面があると、消極的になったり、場面に応じた適正な声量を出せなかったりすることがある。